

第34回よろなか塾 2015年2月5日(木)

## 佐伯四国と本四国八十八カ所巡り 1

講師 彩木の会

佐伯四国八十八カ所巡り 世話人

鶴羽 忠善 氏

### ・プロフィール:

白杵生まれで、佐伯の鶴見育ち。佐伯の白杵造船を退職後、市民活動に従事、現在、「彩木の会」所属。

佐伯四国八十八カ所巡りのお世話をすること2年目。この2月15日は、12人の参加で、今年度の最終回が行われたばかり。この日は、結願報告に佐伯四国奥の院大日寺を皆で訪問。

通常、第3日曜の9時に櫓門前に集合出発、1年に10回で、全コースを一巡する。

もう一つの顔は、木版画家。大分県美術協会委員。版画工房の名前は、「無創」。命名は、元養賢寺安藤秀峰老師。木版作品の一つが、城山堂の紙バググの絵、櫓門で、30年ほど前の作品とのこと。

当日、参加者に配布された絵はがきの絵は、東京都美術館の日本版画会展に応募して入選した作品。

佐伯四国八十八カ所は隠れた佐伯の宝、これを佐伯の観光に浮かび上がらせたいという考えに大いに賛同。佐伯四国の案内をしたいが、本四国を知らないではおかしいということで、単身、昨年末、本四国八十八カ所霊場を初巡り、その経緯の報告です。

### ・30代で木版画を始めましたが、倒産の憂き目に:

木版画を始めたのは30代でした。木版に取り組んだのですが、一生懸命やったのは10年も満たないような期間でした。その10年間でいうのが、割かしおっきな賞ももらったりしたんですが。東京には、二つの会に出品していました。

皆さんにお渡しした絵はがきの日本版画会と、もう一つは、白日会。

<白日会：公募美術展覧会の一つ、毎年、春に国立新美術館で開催されている。2007年までは上野の東京都美術館で開催されてきた。1924（大正13年）に結成された。「絵画部(油彩・水彩・版画)」と「彫刻部」からなる。(ウィキペディア)>

白日会の会長が日展の理事長を務めるという、ピンからキリまでのピンに当たるその白日会の公募展にも出していました。そこで新人賞もいただきました。

続けて真面目にやっておれば良かったんですけども、私の勤務が佐伯造船で、丁度造船所が倒産して、月の給料が5万とかいう時代がずーっと続いたんで、絵をやっちょるどころじゃなかったんですね。

それでもう絵から離れて、会社を定年退職するまで働き、退職して、60過ぎてまた、やり始めています。



最近で言ったら、東京の池袋の駅前に国際劇場というクラシック音楽とか新劇をやってる劇場があるんですが、雑誌社の招待というか要請があって、そのサロンで絵を展示したっていうのが、一番おっきな作品展示です。そういうことで今、大分県の美術協会に所属しています。

### ・佐伯四国は眠れる宝:

「今度こういうことをやるけー一緒に来んか」、「あーいいですよ」ということで軽い気持ちで参加した佐伯四国巡りでした。ところがあちこちを巡っている内に、とても気に入ったんです。

できることならお手伝いしたい、これは佐伯の眠れる宝ではないかと感じるようになってきてですね。

今では大いにこれを市内の多くの皆さんに知ってもらいたい、市外からこの佐伯四国巡りにたくさん来るようになってほしいと思うようになっています。

### ・佐伯四国のコースの概要:

佐伯四国八十八カ所霊場巡りは、大正6年に佐伯の鍼灸師佐藤一哉氏の尽力によって開設されたそうです。巡礼は、大正から昭和の初期にかけて特に盛んに行われていたそうで、白衣の巡礼姿の人を子どもの頃に見かけたと話す人に今でも出会います。

佐伯の町で佐伯四国八十八カ所と言ったら、ものすごくその広い範囲なんですよ。

1番養賢寺に始まり、2番が平野の宝寿院、3番が女島の地蔵庵、それからずーっと巡って、鶴見に行って、米水津に行って、木立に抜けて、堅田に出て、青山、また堅田に抜けて、蛇崎、久部。鶴岡、弥生、切畑の方に行って、直川。

直川から、横川に抜けて、本匠に抜け、本匠から弥生に、床木、海崎、浅海井、夏井の88番で最後。

佐伯の大日寺が、佐伯四国の奥の院。ここに結願報告をして、一周が終りなんです。

宇目は、当時、岡藩で佐伯四国に入っていません。

蒲江は、佐伯藩ですけれども、峠を越えるのが大変だったというので、開設の時点で、佐伯四国に入らなかったようです。

### ・お大師さんのお導きでしょうか?

佐伯四国33番札所は、久部の東禅寺ですが、そのお寺の下に私所のお祖父さんがそこから出たという家があると聞いていたんです。それまで直接その家を見たことがありませんでしたそのお家が、私たちが訪問した日の翌日取り壊されるということを一緒に回っている人が、たまたま教えてくれたんです。

偶然の出来事でしたが、私個人にとってはもうものすごく感激というんですかね、うちの親父のじいちゃんの家を生まれて初めて見たもんですから。お大師さんの導きというのでしょうか、運命的なものを感じたんですね。

東禅寺が真言宗であるとかも関係があったかもしれません。私が本四国を一人で訪問しようと決める

前のことで、お大師さんにだんだんに導かれていたのでしょうか。

### ・地元の人たちとの交流:

直川から本匠に行く途中に、本匠の上津川にある60番札所、地蔵庵、ここに行った時に、その斜め前にある田んぼで、かかしの大集団に出会いました。佐伯の方からそのかかしを見に行く人が多分多かったと思うんですが、行ったら丁度、板の台の上に野菜が置いてあるんですよ。

私たちは、市内において野菜はスーパーで買います。しかし市場に出せないような野菜もあります。

曲がったキュウリとか、そんなんで十分なんです。そんなのを私たちの年代の、仕事をリタイヤーしたような人たちが、朝でも、前の日でも、ちょこっと畑に行って、これは市場に出せそうにないから並べて売ろうやということで、たまたま通りかかった私たちが、その値段の安い、新鮮な野菜を買う。

その時に、若干話をしながら、お互いコミュニケーションを取り合うと、交流が生まれる。

こういう場面を見たのが、私にとってはもう、今年八十八カ所に行ったうちでも一番の収穫だったですね。

人が集まれば、集まった所で、ものを売れば多分売れるということですよ。

私は八十八カ所はただお参りするということではなくて、このことを通じて、地域興しっていうんですか、今佐伯の町が静かとかおとなしいので、私にできることで、地域興しができればいいなあって思っているんです。

私たちが今やってますのはほんの小さな灯りです。これは佐伯四国という小さな灯りです。そのちっさな灯りがいっぱい集まればおっきなうねりになって、佐伯四国八十八カ所ももっとこう人が多くなるんじゃないかなーって思ってるんです。

### ・四国に挑戦するに至った理由:

四国に行ってみようかなという気持ちは前からぼんやりとはあったんですよ。

是非にっていう所までにはまだ行ってなかったんですが、昨年8月です、ばったり会った知人が、一昨年四国に行ったって言うんです。それで、根掘り葉掘り聞いている内に、これやったらひょっとしたら行けるんやないかなーと思ったんです。

一番最初はバック旅行で行きなさい。うるさい作法とかが勉強できるからいいって言うんです。

教えてもらった方が早い作法っていうのは、やはりあるんですね。

明神さんの鳥居を、山門って思って下さい。

鳥居をくぐると、一番最初に手を洗う所があります。身を清めるんですね。手の洗い方は、先ず右手で柄杓を持ってそれで左手を清め、持ち替えて右手を清めます。また持ち替えて、手の平に、水を少し入れて口をすすいで、残った水で、柄杓を傾けて柄を洗います。そして元の位置に戻します。

### ・札所巡りの作法の基本は:

それから、本堂に行くんですけどもその中途にもし鐘があれば、ゴーンって思いっきり突きます。

本堂の前で、ろうそくをライターで付け、その火で、線香に火を付けて線香立てにさして、それから納め札<表に日付・住所・氏名、裏に祈願を書く>を、箱があるのでそれに入れて、お賽銭を入れる。私の場合は、どこのお寺もほんの気持ち五円玉一個で済ませました。

その次にお経を上げるんですけども、お経は最初は先達(せんだつ)さんにつけて一緒にやります。般若心経1回と、本尊真言とか、いろんなことをやって、本堂のお参りがそれで終わって、その次に、大師堂に行くんです。

大師堂に行って、また同じことを繰り返すんです。そういうのを、1番から6番札所までのバック旅行で回る中で、教わりました。

その後、一人旅になるんですが、ろうそくに火をつけて、その火で線香に火をつけて、納め札を箱に入れてと、繰り返しました。何回やってもスムーズに、なかなかいきませんでした。

手を清めるのが抜けたりとかですわね、ありました。

### ・1番～6番札所まではグループ旅行でした。

大分発の1番から行く四国巡りは、3月くらいで終わってまして、昨年秋に私が参加したのは、福岡からのバック旅行でした。

佐伯から、電車で小倉まで。小倉から新門司まで小型のバスで。そこから、夕方、フェリーに乗って翌朝神戸に着きました。

そこでバスに乗り換えて、淡路島に渡り、淡路島の半分くらいを過ぎた頃、バスの中でお経の練習が始まりました。山門をくぐって、どうしてこうしてという説明がありました。

お経っていうのは、般若心経だったら聞き慣れてもいるんですが、インドの言葉、いわゆる梵語をひらがなに変えた真言、「おんころころ〜」とか。

何を言っているのかまるっきり分からないんで、覚えようもなくてですね、口がついて行かないで、本当に往生しました。

### ・「ヘモスカイ」(アイブレイク):

私が個人で言ったら一番好きなのが、「へもす会」の会員っていうのです。

「ヘモスカイ」って言っても、あまりご存じないと思いますが分かりやすく言うと「尻(む)燃(や)す会」。

尻が出そうになったら仰向けになって、お尻を上げて、出そうになったその時、ライターで火をパッと付けて、青白い炎が自分で確認できれば、もうそれがその「へもす会」の会員の資格なんです。

自分がもう会員って言えば会員だし、俺が佐伯の支部長じゃあと思えば支部長なんで、そんなんはゆるい会で、本当に遊び半分なのですが。

悩み事を吹き飛ばすような、そういうのが、私は一番好きですわね。